

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	東住吉
学 校 名	南田辺小学校
学校長名	笹部 靖憲

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・南田辺小学校では、第6学年 135名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

「国語」

平均正答率は、全国平均より2.2ポイント、大阪市平均より4.0ポイント上回っている。

「算数」

平均正答率は、全国平均、大阪市平均より2.0ポイント上回っている。

「理科」

平均正答率は、全国平均を1.1ポイント下回り、大阪市平均より1.0ポイント上回っている。

○無回答率は、「国語」で2.6ポイント、「算数」で2.7ポイント、「理科」で2.0ポイント、いずれの教科も全国平均より0.7～0.9ポイント良い結果となった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

「国語」

○「書くこと」についての正答率が、昨年度は大阪市平均、全国平均には達していない結果となっていたが、3.3ポイント上回った。そのほかどの内容についても大阪市平均、全国平均を上回った。特に「情報の扱い方に関する事項」においては、全国平均より5ポイント大きく上回っている。

「算数」

○「数と計算」についての正答率が昨年、唯一大阪市平均、全国平均には達していない結果となっていたが、1ポイント上回った。しかし、「変化と関係」においては大阪市平均、全国平均には達しない結果となった。そのほかの内容については大阪市平均、全国平均を上回った。特に「図形」においては、全国平均より4ポイント大きく上回っている。今後も引き続き、基礎基本に重点を置いた学習に注力するとともに、大阪市の学力向上支援チーム事業による支援で、研究授業を充実させ、授業力を向上させていく。

「理科」

○「エネルギー」領域で0.7ポイント、「生命」領域で0.6ポイント全国平均を上回ったが、「粒子」領域では1.5ポイント、「地球」領域では2.1ポイント全国平均を下回った。理科学習では考えの根拠となる科学法則を納得をもって身に付けさせるために、まずは観察・実験を正確に実施することが大切である。本校の実情に応じた形での観察・実験の充実を図っていきたい。

質問調査より

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」を尋ねる設問に最も肯定的に答える児童が6割を超えている。全国・大阪市よりも大きく上回っている。今後も、自分が困ったときにも助けを求められるようにお互いに、人の気持ちを大切にする力を伸ばしていきたい。

○「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分の考えや意見を発表する機会では、自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができる」との設問に最も肯定的に答えた児童が41.7%いる。大阪市・全国平均より10ポイント以上も高く、情報活用能力に自信がある児童が増えてきている。昨年度、リーディングDXスクールの指定校を受けたことでICT機器の活用率も上がり、クラウド環境をうまく使えるようになってきたので、さらに協働的な学習に取り組めるようにしていきたい。

○「読書は好きですか」との設問に「最も好き」と答える児童が52.8%全国平均を16%上回る。「あなたの家には、およそどのくらいの本がありますか」の設問には、「26～100」「100～200」冊と答える児童が多く、家庭、地域の読み聞かせ活動の協力もあり、学びの環境が整ってきている。

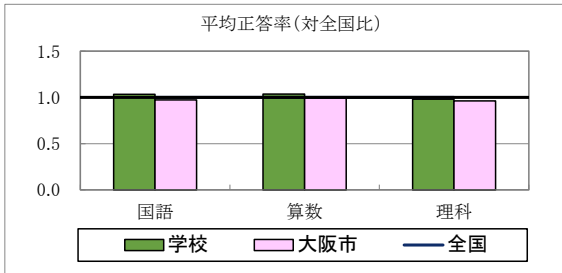
今後の取組(アクションプラン)

- 昨年度、リーディングDXスクール事業の指定を受けたことで、児童の一人一台タブレットの活用能力が高まってきている。一人一人に応じた学び方で「個別最適な学習」ができるように、今後課題である算数の「変化と関係」なども基礎力がつくように指導方法を充実させていく
- 授業の導入時にめあてを示して学習の終わりに振り返る習慣を身につけ毎時の学びを確かなものとする。
- 交流活動を効果的に取り入れ、ICT機器を積極的に活用し、自分の考えを広めたり深めたりする場を設定すること等を通して、児童が主体的、対話的、深い学び迫ることができる授業展開をめざす。
- 児童が、達成感・成就感を味わえるような体験学習の実施や指導者からのポジティブな声かけにより、自尊感情を醸成する。ビオトープで自然と触れ合える環境を活かし、子どもたちの興味関心を引き出し、自発的に学ぶ楽しさを習得させていく。
- 「分からないことやくわしく知りたいこと」があったときに、自分で学び方を考え、工夫できていないと感じている児童、わかるまで教えてほしいと思っている児童が1割以上いる。質の高い授業を目指しつ、学習において支援を必要とする児童に自信をつけさせていきたい。

【 全体の概要 】

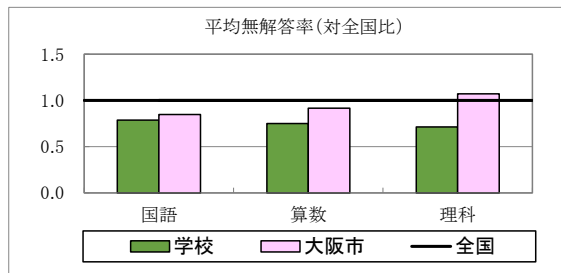
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	69	60	56
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	2.6	2.7	2.0
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



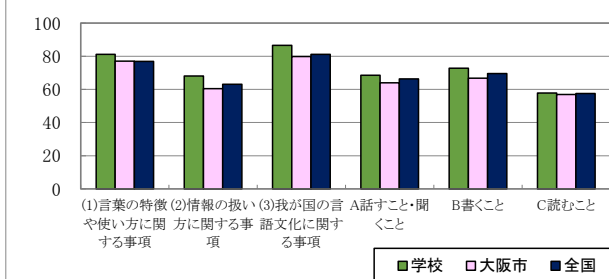
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	81.1	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	68.1	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	86.6	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	68.6	64.0	66.3
B 書くこと	3	72.8	66.7	69.5
C 読むこと	4	57.8	56.9	57.5

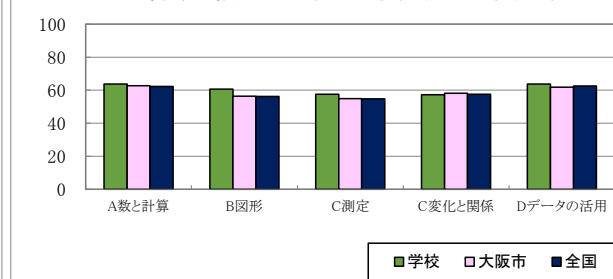
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	63.8	62.7	62.3
B 図形	4	60.6	56.4	56.2
C 測定	2	57.5	54.9	54.8
C 変化と関係	3	57.2	58.2	57.5
D データの活用	5	63.7	61.9	62.6

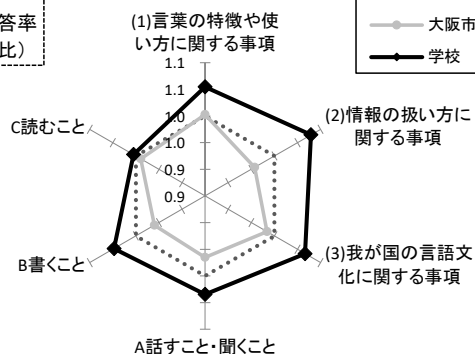
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



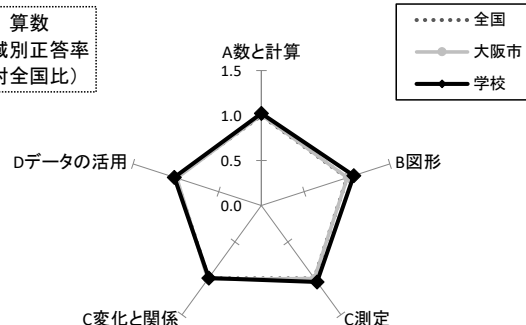
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

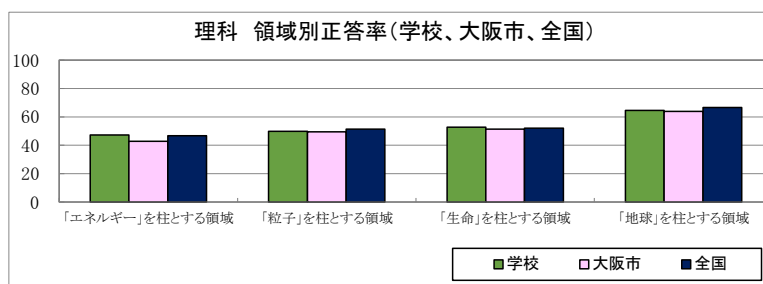


算数
領域別正答率
(対全国比)

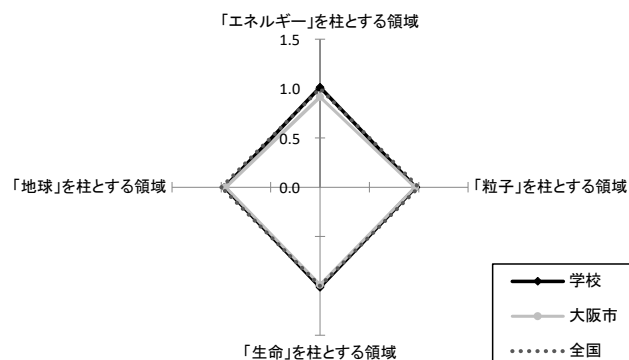


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分 「エネルギー」を 柱とする領域	4	47.3	42.7	46.7
	6	49.9	49.5	51.4
B 区分 「生命」を 柱とする領域	4	52.7	51.4	52.0
	6	64.6	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

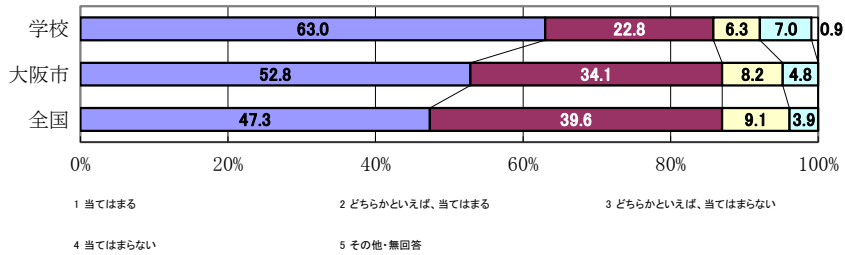
質問番号

質問事項

5

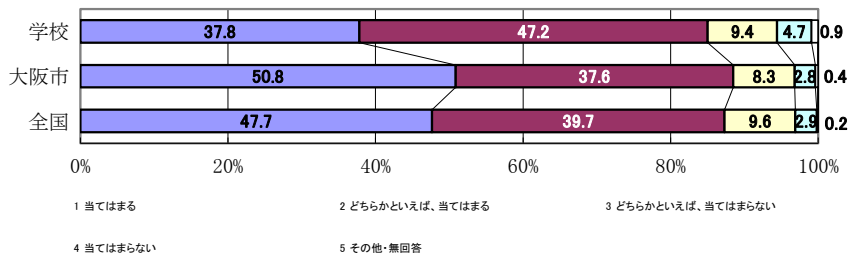
自分には、よいところがあると思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8



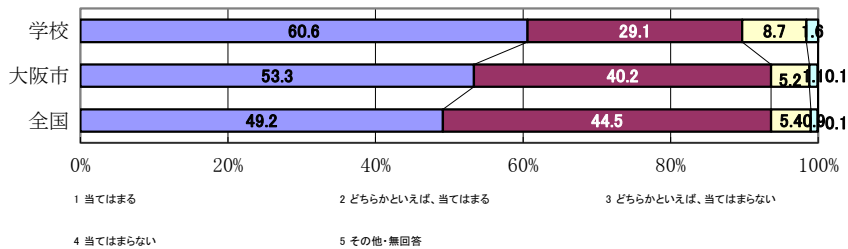
38

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



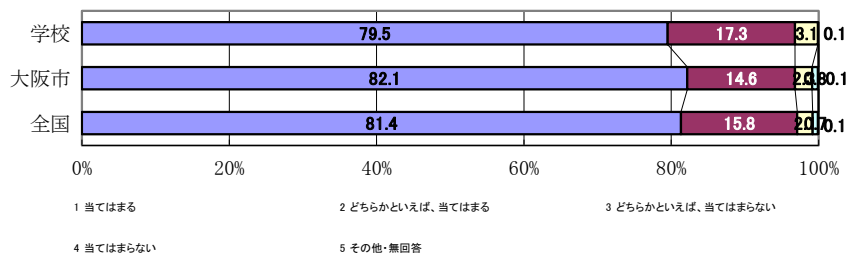
8

人が困っているときは、進んで助けていますか



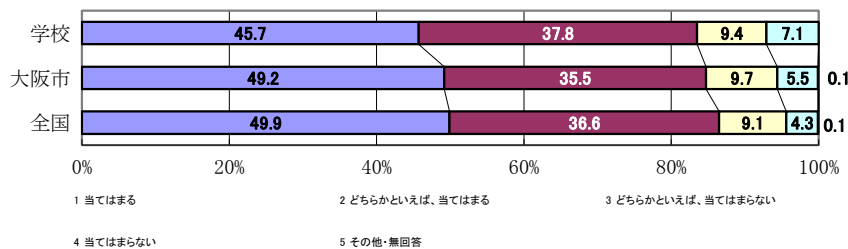
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



12

学校に行くのは楽しいと思いますか



学校質問より

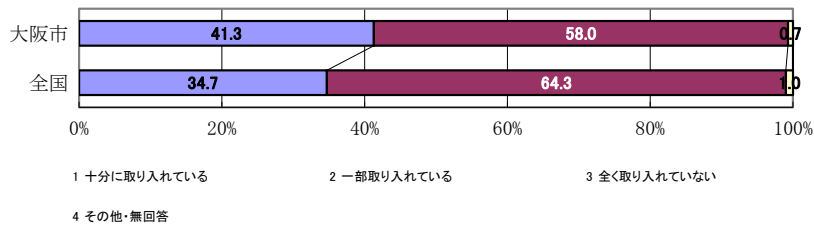
質問番号

質問事項

13

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

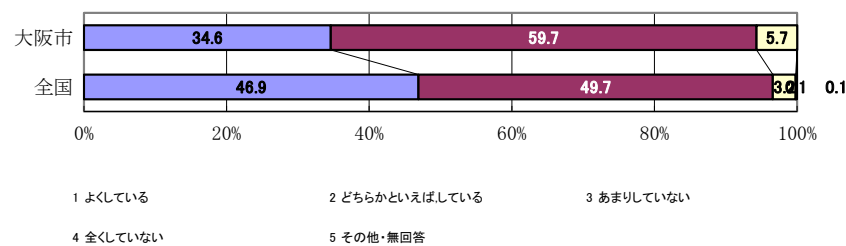
学校「」を選択



14

教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか

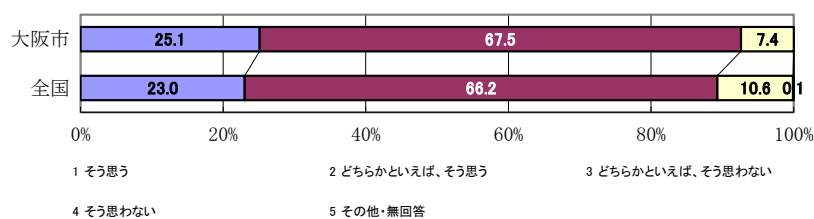
学校「」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

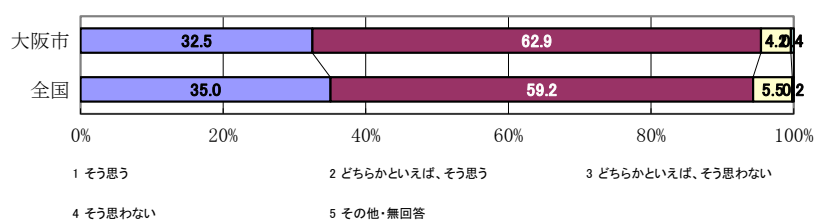
学校「」を選択



28

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

学校「」を選択



58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校「」を選択

